

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2491300196		
法人名	株式会社オルゴール		
事業所名	グループホーム奏		
所在地	名張市安部田2309番地		
自己評価作成日	2020年11月16日	評価結果市町提出日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2491300196-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 2 年 11 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

音楽に関する支援を重視しています。特に毎月開催の音楽療法(音楽セラピー)は併設するデイサービスと共同開催にて月に1回行っている。また、毎年秋に開催する地区の文化祭(錦生文化祭祭り)に創作品の出店をもって交流を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立時に代表が考えた5つの介護、①利用者、家族との向き合い、話し合い【皆】様と一体の【皆護】、②最大限の【懐】しい能力を目覚めさせる【懐護】、③五感を刺激し人を【快】よくする食事【快護】、④創作と創造を【改】革し作品と思い出作りの【改護】、⑤出【会】いを大切にする【会護】を、職員は常に身に付けている。利用者が今まで通り自由に日常生活を営むことが出来る様に生活リハビリ・音楽療法を取り入れている。また、生活ベースを基本とし一人ひとりの出来る事を第一に考え、利用者本位の自己決定を主とした生活環境を送れるように支援している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に「5つの介護」を掲示し職員各位の共通認識として日々のサービス提供(支援)に実践してもらえるように努力しています。	事務所入り口に掲示されている5つの介護をプリントアウトして、常に携帯して職員は理念を意識している。また、職員会議の中でも理念を振り返る機会もあり、職員間で日々共有して支援の実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業者が所属する地区(錦生)が主催する文化祭に入所者様の創作品の出展参加をし交流を持っています。秋祭りの獅子舞の訪問等は入所者様に大変好評であります。	近所の住民の一次避難場所に事業所の駐車場を提供している。地域の秋祭りの獅子舞の来訪や運動会の見学に自治会長より招待状を頂き席も用意してくれる。また、文化祭には利用者の作品を展示したり、童謡のハモニカ演奏のボランティアが来訪している。さらにコミュニティバスの広告料を協賛し地域の一員として交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会、市民センターからのお祭りや運動会の招待状や錦生コミュニティバスの広告をもって地域の協賛させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には必ず入所者様のご家族様に参加していただき、施設内での出来事や情報、報告を行い、意見や相談、提案などの話し合いの場として生かしています。	コロナ禍の関係で現在は2月より中断しているが、通常は市担当者・まちの保健室・家族が参加し奇数月に開催している。入居状況・行事報告・ヒアリハット・事故報告について、いろいろな意見が出てサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	名張市地域包括支援センターより介護相談員の訪問が3か月に1度来てくれます。社会福祉事務所からも半年に1度訪問していただき取り組み状況などを報告させていただいています。	市担当者からは生活保護者の受け入れで援護課の訪問が多い。ケースワーカー・介護相談員の来訪や相談事等に月1~2回程、市に訪問している。また、市担当者との交流も多く協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の実施の有無に関する取り組み報告書に拘束の適正化に関する考え方と合わせて明文化した書類を作成し、日々の業務に活用しています。	主にヒヤリハット・事故報告書等を使用し、運営推進会議の場で報告している。また、拘束をしない考え方を検討し、ヒヤリハットの作成によりあらゆる拘束をしないケアに努めている。	身体拘束・言葉の拘束・服薬の拘束等、拘束について学ぶ研修会・委員会の場を事業所内で持つよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記書面をもって職員会議などで虐待に関する事柄を話し合い意見や意識改革の材料とし防止抑制に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保険者からの生活保護受給者の入所紹介を積極的に受け入れ権利制度や成年後見等の権利擁護に接する機会を持ち高齢者等支援の活用としています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には読み合わせにて説明させていただき、質問疑問に口頭にてお答えしご理解をいただいています。また契約書と重要事項説明書を1冊にすることで紛失ないように配慮しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベントごとや行事ごとの写真を定期的に作成し外部への発信ツールとしています。家族様の意見反映は運営推進会議の参加をもって発言の場を設けています。	イベント・行事等がある度に写真を取り、定期的に家族に送付している。また、面会は今は難しいのでライン・メールを活用したり、玄関入口等で短時間話せる機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見に行き違いのないように職員連絡ノートを作成し、入所者様やご家族様、職員の提案や意見を反映できるようにしています。	思いついた事・気が付いた事・出来事・言いにくい事等を職員ノートに各自記入し共有している。現在は外出が難しいので、室内で楽しめるレクリエーション・イベント行事等の提案があり、全職員で検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意識向上・意識改革を持ってもらえるように実績や資格取得、研修参加や勤務態度等を考慮し、それらに似合った処遇改善をし、サービス提供の向上につながるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格や研修等に参加できるようにしています。今期はコロナの影響で延期しましたが例年では認知症基礎研修・実践者研修の参加をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	通所系サービス事業者との交流を通して、当事業所の持っていないソフト面の取り組みやサービス内容などお互いの情報交換をすることでサービス向上に向けた活動をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期時には引継ぎ書面(サマリー)だけを鵜呑みにせず直接本人様に会いに出向いて話を聞きに行くようにしています。入所当日に初対面でない状況をもってもらい少しでも安心してもらう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱えている悩みや入所後の協力相談は可能な限り取り組み、家族の声が聞こえる(届く)環境を作っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・看護師・計画作成者・職員の意見を合議し家族の要望を取り入れ、入所初期に訪問診療を受けてもらい医師の意見等をもって初期の見極め支援材料としています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り個々でできることは自らしてもらい、日々の日常生活で共同生活をしている「暮らし」の意識を持ってもらう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊や定期受診の通院の際に本人とご家族様との交流を持ってもらっています。※今期は新型コロナウイルスの影響にて交流があまり持てずにいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記同様に外泊や食事に積極的に出かけて行ってもらっています。※今期は新型コロナウイルスの影響にて実施できず。	コロナ渦の関係で友人・知人・近所の方の来訪が少なくなり、家族の協力で行きつけの美容室・実家での外泊・病院受診が主であるが、利用者の思いや考えを把握し、馴染みの人との関係が途切れない様に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少なくとも1日1回は歌を歌う時間を設け皆さんが好きな歌を合唱して連帯感を意識してもらえるように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族様からの紹介で入所された方をはじめ、買い物先で出会ったご家族様に気軽に話しかけられた職員がすごく嬉しかったと話してくれたことがありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様個々の時間を束縛しないようにまた生活リズムを崩さないように、趣味の時間などに干渉しないようにしています。	普段の会話の中での表情・仕草等を察しながら、また、利用者同士の会話の傾聴・家族からの情報を掴み、気づいた事・聞き取った事・感じた事等は連絡ノートに記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	併設するデイサービスに当事業所に入所する義理のお姉さまがご利用している曜日には一緒に昼食をしてもらったり馴染みの共有時間を持ってもらうなど工夫しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者様の一人一人の身体状況が違うので看護師や理学療法士・作業療法士、訪問歯科医、訪問医師の意見を把握し個々の現状把握としています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人の情報データをカテゴリーごとにファイリングし日常の介護記録を織り交ぜて各職種の見解を反映し家族様が閲覧して理解してもらえる計画作成に取り組んでいます。	家族の意向・意見は、今は電話が多いが面会時での把握に努めている。6ヶ月毎にモニタリングの結果を、計画作成者と全職員参加のサービス担当者会議で話し合い、介護支援専門員がケアプランを完成させ6ヶ月毎に見直しを行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録所を「介護記録Ⅰ・Ⅱ」と用意し1日のチェック項目と身体状況(変化)など記し引継ぎノートに申し送りをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週3回の人工透析のある入所者様の受け入れや成年後見人のいる入所者様の受け入れなど他の事業所で断られた方の入所を受け入れることで多機能化を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地場産栽培のキノコの購入や地区運動会への参加、桜まつりの観覧などで心身機能の充実できる支援をしています。今期は新型コロナウイルスの影響にて実施できていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域医療の推進と医療体制の充実を目的とし、訪問医療(往診)と訪問歯科との協力体制を取り入れ通院時の院内感染対策や感染リスクの軽減の支援をしています。	入居時に家族に同意を得て、利用者全て協力医を主治医としている。月1回、協力医の定期訪問診療があり、歯科医も2ヶ月に1回、口腔ケアの定期診療がある。受診は基本的に家族に協力を得ている。また、看護師も健康チェックとりハビリ訓練に来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	処方された副薬剤の管理をはじめ医療面でのアドバイスやかかりつけ医への直接連絡をしてもらうことで職員とのスムーズな連携を図り、適切な受信診療を支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には前もって施設責任者、代表職員が状況確認のため病院に出向きその後の支援体制や家族様との連絡を行えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時にできる限りその場その場での対応を軽減すべく、前もった支援を家族様と看護師、医師と連携しその人に合った対応をチーム全体で取り組めるように努めています。	契約時に家族に看取りの指針で説明し同意書を交わしているが、体調に変化があれば主治医の指示・意見で再度、家族と話し合いを持ち事業所の看取り指針の共有に努めている。年1回、緩和ケアの研修会に職員が参加し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に緊急マニュアルを作成し事業所の見えるところに設け職員全体に周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と年2回の消防保守点検・機器点検の実施に取り組んでいます。近隣の方のご協力とご理解を得緊急第一避難場所として事業所駐車場を指定しています。今期の避難訓練は新型コロナウイルスの影響にて実施できず	年2回、消防署立ち合いの下、避難所を駐車場と決め通報・消火・避難訓練を行なっている。今年には各種の災害防災マニュアルを作成し、近所の住民の方には一時避難場所の提供も行っている。備蓄は水・食料品等3日間分用意し、非常防災備品としてサーチライトを備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者一人一人の身体機能や性格や生い立ちなどを考慮し、対応・コミュニケーションの違いを意識した言葉がけをしています。	利用者一人ひとりの性格・癖等を充分把握し、社交性のある声掛けや言葉使いに配慮している。利用者個々によって利用者・家族の了解の下、呼称を変えている。また、同性介助にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に生活ベースを個人の時間を基本とし、趣味の工作をする方もいれば、相撲観戦する人やなど可能な限り自己決定した環境づくりを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等の決まった時間以外は上記同様個々の生活リズムを尊重しています。特に作成した作品を施設内に展示することで本人の意欲向上に配慮するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的(3か月に1回)は訪問理容にきてもらい身だしなみ等に配慮しています。家族様の協力で季節の衣類の入れ替えも実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活の基本と考え手造りを心がけています。調理のにおいが施設内に漂い、食欲をそるようになっています。以前は準備等も入所者様に手伝ってもらっていましたが、新型コロナウイルスの影響にて現在は控えています。	献立を含めた食材を職員が買い出し、3食共職員が調理している。行事食も職員が考え、その都度楽しみな献立料理になるように努め、外食も取り入れ、いつもの行きつけのうどん店がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、看護師等との相談を留意し食べやすい献立し、刻み食の方には配慮して肉、魚、野菜のバランスよく提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医院の定期口腔ケアや歯科指導を取り入れた対応をしています。食事前の口腔体操や口を動かすように歌の時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助の必要な方以外は基本的に自分で排尿・排泄をしてもらっています。(要見守り)また、一部の入所者様は現在布パンツで生活をしている入所者様もいます。	現在、尿・便意を訴える利用者が6名、布パンツの方が2名いる。一人はおむつを利用しているが排泄チェック表で個々のパターンを掴み、声掛けして見守りに徹底排泄はトイレでと心掛け、現在の状況を出来るだけ維持出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	往診時主治医や看護師に個々の便通の相談をし、その意見をもとに便通予防に取り組んでいます。また、衛生面からも下痢のないように食事面でも気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人づつゆっくりとしてもらえるように入浴介助時間を設けています。週3回の入浴を基本とし、湯船の入れ替えをした入浴提供をしています。	入浴は週3回を原則として、午後からの入浴支援をしている。男女で湯舟の湯を入れ替え、全員が湯舟にしっかり浸かり、時間を決めずゆったりと個々に添った入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に就寝時間の決まりを設けておらず居室内では個人個人テレビを観たり早く就寝する方もいたりその人ごとに安眠・休息の生活環境をとってもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、朝・昼・夕と飲む時間帯を明記し服薬ボックスに配置します。その日処方された服薬剤は看護師確認してもらい個々に振り分け配置し介護職員と連携した管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	秋の地区文化祭に向けての出展作品を入所者様、職員と共同で作成することが当事業所の大きな取り組みの一つで入所者様役割と楽しみを持ってもらえるものとしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	以前は気候の良い春や秋にドライブへ行ったり外食企画などをしたりとイベントを開催していましたが、今期は新型コロナウイルスの影響にて外出支援は行っていません。	現時点での状況化での外出は難しいが、川沿いの道を散歩したり、併設のデイサービスへ音楽イベントに出掛けている。また、ドライブを兼ねて花見や地域の文化祭に参加したり、家族の協力を実家に帰ったり、専門医へ受診に行ったりしている。コロナ渦が治まり次第、戸外に出掛けられるよう支援に努める。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様のご了解のもと、金銭トラブルのないように事業所での金銭(貴重品)の所持はご遠慮いただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話や手紙を出すことはないですが、お正月には年賀状、定期的に絵手紙などの郵便物は個人宛に届きます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	つくり設計が木材の素材をそのまま活用しているため事業所内が明るくまた比較的死角の少ない造りなので職員の目の届く範囲が多く安全配慮がしやすいと思います。	玄関には綺麗な造花が飾っており、リビングには季節の生花が飾られている。各居室は一列並行に中心に存在し利用者との動線上に作られている。台所はリビング兼食堂と対面式になっており、天井の2つの吹き抜き窓から、明るい日差しが差し込んでくる。ホームには沢山の木材の資材が使用され温かさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う者同士テーブル座席の配置を考えたたり、職員は間に入れるような配置等にした工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はプライベートな場所であるため傷つけたりしない限りは自由にレイアウトしてもらっています。使い慣れたものや見慣れたものを自宅より持ってきてもらっています。	ベッド・整理棚が設備され、その人らしい生活を守れるよう馴染みの物を持ち込み、居心地良く過ごせる居室に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や足元には不要なものは置かず、歩きやすいように安全・安心の配備に心掛けています。		